

担当教員と主な研究分野

庄司 正実

SHOJI, Masami

現代心理学専攻

修博

教授・研究科長 医学博士

歴 筑波大学医学専門学群卒業、筑波大学大学院博士課程医学研究科修了。現・目白大学心理学部心理カウンセリング学科教授

研 1)少年の薬物乱用：入所非行児を対象として乱用の実態を疫学調査している。 2)産業精神保健：うつ病、職場ストレス、ソーシャルサポートなど。

著 Relationship between solvent inhalation and antisocial behavior, Psychiatry and Clinical Neurosciences, 1996。 | 「児童自立支援施設における薬物乱用の動向」『日本社会精神医学会雑誌』20巻4号(2011年)

小野寺 敦子

ONODERA, Atsuko

現代心理学専攻

発達心
修博

教授 博士(心理学)

歴 東京都立大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得満期退学。目白大学短期大学部教授等を経て現職

研 生涯発達 の視点に立ち、親子関係について幅広く研究を行っているが、エゴ・レジリエンス・ジェネラティビティにも関心を広げている。臨床発達心理士の立場から発達障がいの子どもと親の支援にも関わっている。

著 『手にとるように発達心理学がわかる本』(2009年 かんき出版) | 『「エゴ・レジリエンス」でメゲない自分をつくる本』(2015年 一藝社) | 『小生事がことがまるごとわかるキーワード55』(2018年 金子書房)

奈良 雅之

NARA, Masayuki

現代心理学専攻

修

教授 文学修士

歴 日本大学文理学部卒業、日本大学大学院文学研究科教育学専攻博士後期課程満期退学、早稲田医療専門学校卒業(鍼灸師)。北里大学講師等を経て現職

研 健康心理学、東洋医学等、1)ボディワーク・呼吸法・運動行動実施時の感情変化に関する研究、2)事象関連電位などによる選択反応行動の神経心理学的研究等。

著 「スポーツ選手の痛みに関する心理支援と鍼灸マッサージ」『医道の日本』68巻4号(2009年) | 『あはき心理学入門』共著(2010年 ヒューマンワールド社) | 「肩こり感尺度作成の試み」『Health and Behavior Sciences』9巻2号(2011年)

現代心理学専攻 非常勤講師

温泉 美雪

東京家政大学人文学部
心理カウンセリング学科准教授

公認心
臨床心

亀井 美弥子

湘北短期大学保育学科准教授

高橋 浩

ユースキャリア研究所代表

公認心

中村 洸太

池袋心理教育研究所所長

公認心
臨床心

真柄 希里穂

保谷メンタルクリニック
下北沢メンタルクリニック
(医)春晴会 ハルこころクリニック

公認心

河野 理恵

KAWANO, Ric

現代心理学専攻

修

教授・専攻主任 博士(心理学)

歴 筑波大学大学院博士課程心理学研究科修了。筑波大学心理学系技官・助手を経て現職

研 専門は老年心理学と認知心理学。主な研究テーマは、1)高齢者のライフスタイルに応じた支援の構築、2)老年期における記憶能力の維持と認知症予防、3)高齢者のジェネラティビティなど。

著 『エピソードでつかむ老年心理学』共著(2011年 ミネルヴァ書房) | 『スタンダード認知心理学』共著(2015年 サイエンス社) | 「準限界集落に居住する高齢者の生活満足度に影響を与える要因の検討」『高齢者のケアと行動科学』27巻(2022年)

加賀美 常美代

KAGAMI, Tomiyo

現代心理学専攻

修博

教授 文学博士

歴 慶應義塾大学大学院社会学研究科修士課程修了、東北大学大学院文学研究科博士後期課程修了。お茶の水女子大学基幹研究院教授等を経て現職

研 異文化間心理学。多文化間の心理教育的援助。異文化接触によって人間行動や人間関係がどのように影響されるか、葛藤と文化的価値観などの関連を研究している。

著 『多文化社会の偏見・差別一形成のメカニズムと低減のための教育』共編著(2012年 明石書店) | 『多文化共生論ー多様性理解のためのヒントとレッスン』編著(2013年 明石書店) | 『異文化間葛藤と教育価値観ー日本人教師と留学生の葛藤解決に向けた社会心理学的研究』(2019年 明石書店)

財津 亘

ZAITSU, Wataru

現代心理学専攻

修

准教授 博士(文学)

歴 立命館大学大学院文学研究科心理学専攻博士課程前期課程修了。富山県警察本部刑事部科学捜査研究所主任研究官を経て現職

研 犯罪者プロファイリング、ポリグラフ検査、目撃証言など、犯罪心理学、捜査心理学を専門とする。

著 『犯罪者プロファイリングにおけるベイズ確率論の展開』(2011年 多賀出版) | 『犯罪捜査のためのテキストマイニング』共著(2019年 共立出版) | 『Rと事例で学ぶベイジアンネットワーク(原著第2版)』訳(2022年 共立出版)

今野 裕之

KONNO, Hiroyuki

現代心理学専攻

修

教授・副学長 心理学修士

歴 筑波大学大学院博士課程心理学研究科単位取得退学。筑波大学心理学系技官・助手を経て現職

研 ①対人関係の社会心理学 ②臨床社会心理学、特に自尊感情・自己制御と精神的健康の関連 ③組織のリスク・マネジメントについての心理学的研究

著 『リスク・マネジメントの心理学』共編(2003年 新曜社) | 『組織健全化のための社会心理学』共著(2006年 新曜社) | 「状態自尊感情尺度の開発」共著『パーソナリティ研究』16巻1号(2007年)

川端 美樹

KAWABATA, Miki

現代心理学専攻

修

教授 社会学修士

歴 慶應義塾大学文学部卒業、同大学大学院社会学研究科社会学専攻後期博士課程単位取得満期退学。福島女子短期大学助教等を経て現職

研 社会心理学、メディア・コミュニケーション論の視点から、現代社会でメディアが人々の社会的現実認識や心理・行動に与える影響について、実証的研究を行っている。

著 『フィクションが現実となるときー日常生活にひそむメディアの影響と心理』訳(2019年 誠信書房) | 「科学的問題の報道に対する受け手の批判的態度」『メディア・コミュニケーション』71号(2021年) | 『クリティカル・オーディエンスーメディア批判の社会心理学』(2023年 新曜社) | 『ポジティブメディア心理学入門』訳(2023年 新曜社)

大嶋 玲未

OHSHIMA, Remi

現代心理学専攻

専任講師 博士(心理学)

歴 立教大学大学院現代心理学研究科心理学専攻博士課程後期課程修了。立教大学大学教育開発・支援センター学術調査員、助教を経て現職

研 専門は、産業・組織心理学(組織行動・キャリア)。研究テーマは職種におけるダイバーシティ(特に障害者雇用)推進に向けた環境づくりなど。

著 「高機能自閉スペクトラム症者が定着する職場の特徴ー非特例子会社4社へのインタビュー調査からー」『キャリアデザイン研究』16号(2020年) | 「ジョブ・クラフティングを促進する組織の社会的要因とその構造：ベンチャー企業の一事例による質的検討」『目白大学心理学研究』19号(2023年)

マークの説明

歴 主な経歴

研 現在の主たる研究領域・テーマ

著 主な著書・論文

修 博 各学位論文の主旨導ができる教員

各専攻の担当教員は、[現代心理学専攻](#) [臨床心理学専攻](#) で確認してください。

[発達心](#) 臨床発達心理士の有資格者 [公認心](#) 公認心理師の有資格者 [臨床心](#) 臨床心理士の有資格者

修士論文の指導については、学生の研究内容により主指導担当以外の教員も論文指導を行います。詳細はオープンキャンパスなどでお問い合わせください。

杉本 希映

SUGIMOTO, Kie

臨床心理学専攻

公認心
臨床心
修博

教授・専攻主任
心理カウンセリングセンター長 博士(教育学)

歴 筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科修了。湘北短期大学生活プロデュース学科専任講師を経て現職

研 児童期から青年期の教育臨床を専門とし、研究と実践を行ってきた。子どもの「居場所」・いじめ・虐待など近年の子どもが抱える問題について研究している。

著 『中学生の「居場所環境」における心理的機能に関する研究』(2009年 風間書房) | 『事例から学ぶ児童・生徒への指導と援助』編著(2010年 ナカニシヤ出版) | 『学校で気になる子どものサイン』編著(2012年 少年写真新聞社) | 『生徒指導とカウンセリング』共著(2013年 協同出版) | 『いじめ予防スキルアップガイド：エビデンスに基づく安心・安全な学校づくりの実践』(2021年 金子書房)

笹川 智子

SASAGAWA, Satoko

臨床心理学専攻

公認心
臨床心
修

准教授 博士(人間科学)

歴 早稲田大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了。早稲田大学人間科学学術院助教を経て現職

研 社交不安症の治療と予防に関する研究を、主として認知行動論的な立場から実施している。また、精神発達病理学的な観点から、児童青年期の不適応症状の発現に関連する要因について幅広く検討している。

著 「日本の児童生徒における社会不安の特徴：Social Phobia and Anxiety Inventory for Children (SPAI-C)を用いた検討」『心身医学』49巻8号(2009年) | 『臨床児童心理学：実証に基づく子ども支援のあり方』共著(2015年 ミネルヴァ書房)

阪無 勇士

SAKANASHI, Yuji

臨床心理学専攻

公認心
臨床心

専任講師 博士(心理学)

歴 東京成徳大学大学院心理学研究科博士後期課程を修了。児童相談所児童心理司、昭和学院短期大学助教等を経て現職。特別区の児童相談所心理療法担当職員を兼任

研 児童虐待や不適切な養育がもたらす心理的な影響に對し、生活臨床の立場から治療的に介入していく研究と実践を行っている。また、各児童相談所等において、研究者の立場から子ども中心の支援と人材育成を行っている。

著 「一時保護所職員の受容的な関わりが入所児童の安全感・安心感に及ぼす影響ー被虐待児が求める受容的な関わり方」共著『ヒューマン・ケア研究』19巻(2019年) | 『子どもを支援する教育の心理学』共著(2021年 ミネルヴァ書房)

臨床心理学専攻 非常勤講師

井上 敦子

東京女子医科大学病院
神経精神科

公認心
臨床心

小栗 貴弘

跡見学園女子大学心理学部
臨床心理学科准教授

公認心
臨床心

金沢 吉展

明治学院大学心理学部教授

臨床心

土屋 正雄

(株)アドバンテッジリスクマネジメント

平松 洋一

こまち臨床心理オフィス
千葉大学子どものこころの発達
教育研究センター特任研究員

公認心
臨床心

馬淵 聖二

千歳烏山心理相談室 室長
菱沼メンタルクリニック 心理士

公認心
臨床心

高橋 稔

TAKAHASHI, Minoru

臨床心理学専攻

公認心
臨床心
修

教授 修士(教育学)

歴 筑波大学大学院博士課程心身障害学研究科退学。広島国際大学臨床心理学科助手を経て現職

研 応用行動分析学の考え方や技法を心理臨床の世界にどのように応用できるかについて研究している。現在は、Acceptance and Commitment Therapyの技法の効果検証を行ったり、不安体験中の主体的行為についてアイトラッキング装置を用いて研究している。

著 うつ症状の再発予防を目的としたアクセプタンス & コミットメント・セラピー』『行動療法研究』42巻2号(2016年) | 『心理学ベーシック なるほど!心理学面接法』(2019年 北大路書房) | Gaze and avoidant patterns of visual attention to aversive stimuli during fear habituation trial. Journal of Behavioral and Cognitive Therapy, Vol.33(4), 2023.

諏訪 絵里子

SUWA, Eriko

臨床心理学専攻

公認心
臨床心
修

准教授 博士(小児発達学)

歴 大阪大学連合小児発達学研究科博士後期課程修了。大阪大学キャンパスライフ健康支援センター特任講師を経て現職

研 子ども心理を専門とし、主に発達と母子関係の側面から研究するとともに、遊戯療法などを実施している。また、発達障害の特性理解とそれに基づいた支援方法について実践的研究を行っている。

著 「精神分析と乳幼児精神保健のフロンティア」共訳(2018年 金剛出版) | 「自閉スペクトラム障害のある大学進学予定者への移行支援プログラムの実践」『高等教育と障害』2巻(2020年) | 「成人期初期の日本人に対する実行機能行動評価尺度の信頼性・妥当性の検討」『心理学研究』第95巻 第4号(2024年)

日高 響子

HIDAKA, Kyoko

臨床心理学専攻

公認心
臨床心

専任講師 博士(公衆衛生学)

歴 筑波大学大学院人間総合科学学術院パブリックヘルス学位プログラム修了。筑波大学附属病院臨床心理士、つくば市発達相談員を経て現職。

研 医療心理学を専門とし、身体疾患をもつ患者と家族の心理支援や小児がんサバイバーの精神健康支援などについて研究している。

著 「病をもつ子どもが『子どもらしく生きる』心理的支援」『心理臨床学研究』第38巻3号(2020) | Cognitive functions of pediatric brain tumor survivors treated with Proton beam therapy: a case series. Journal of Pediatric Hematology Oncology, 2020. | Development of Adolescent Childhood Cancer Survivors' Psychosocial Issues Scale. Pediatrics International, 2023.

黒沢 幸子

KUROSAWA, Sachiho

臨床心理学専攻

公認心
臨床心

教授 文学修士

歴 上智大学大学院文学研究科博士前期課程修了。私立公立学校スクールカウンセラー、上智大学・立教大学大学院講師等を経て現職

研 ①学校臨床心理学、スクールカウンセリング、②ブリーフセラピー(解決志向、ナラティブなど)、コミュニティ臨床(ピアサポート、コンサルテーション、心理教育)

著 『指導援助に役立つスクールカウンセリング・ワークブック』(2002年 金子書房) | 『明解! スクールカウンセリングー読んですっきり理解編』共著(2013年 金子書房) | 『やさしい思春期臨床ー子と親を活かすレッスン』(2015年 金剛出版) | 『解決志向のクラスづくり 完全マニュアル』共著(2017年 ほんの森出版)

浅見 祐香

ASAMI, Yuka

臨床心理学専攻

公認心
臨床心

専任講師 博士(人間科学)

歴 早稲田大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了。新潟大学人文社会科学系講師を経て現職

研 主に、認知行動療法の立場から、依存行動や犯罪行為の維持メカニズムおよび効果的な心理学的支援について研究している。現在は、クレプトマニア(窃盗症)やギャンブル、ゲームなどの行動嗜癖を対象とした治療や予防に関する研究を実施している。

著 「窃盗症の発症過程における認知と行動の変化」共著『心理学研究』92巻2号(2021年) | 『司法・犯罪心理学 公認心理師スタンダードテキストシリーズ19』共著(2024年 ミネルヴァ書房)